

令和2年10月24日（土）開催

多度地区小中一貫校整備事業 小中一貫教育講演会 感想用紙集約

講師：元呉市立蒲刈中学校長 二宮 肇美 氏

小学校、中学校の交流、専門の教科担任に小学生も教えてもらえるのは凄く意義があると思いました。不登校の子が多い時代、色々な年齢の子と交流する事によって、狭い世界から変わる事が出来るかもしれませんね。

実際の経験談を聞かせて頂き、メリット・デメリットが理解でき良かったです。目指す姿である「子供たちにあった教育」を進める為に、教員の意識改革も必要であると思いますが、教員のリソースがあつてこそだと思います。ぜひ、子供達のためになる様に活動を進めて頂きたいです。

講演をきいて、少し印象がわかりました。「子供たちのためであること」というのはいつの時代でもどんな環境でも、先生達や教育委員会、地域の方々、親には考えていただきたいと思いました（自分も含め）。ただ子供の人口が減ってきただけでは理由にしてほしくないと思います。（多度の場合は、それが1番の理由かもしれませんが）。人間関係が9年間変わらないと、いじめとかの対策が気になりました。他にも学校周りの交通事情や、道が狭い所が多いことなど、色々考えることが多いのではないかなと思いました。

小中一貫教育という話を聞いた時は初めはとまどいがありました。自分の子供は三姉妹で三女のみが令和7年だと中3にあたるからです。でも、今日の講演会に来てみて、自分が感じていた部分が少し安心に変わる部分が出てきました。より良い小中になるなら教職員のみなさんも大変だと思いますが、よろしく願います。自尊感情を向上させるというお話はすごく胸を動かされました。

分かりやすい具体例をまじえての講演でした。ありがとうございました。「子どもにとっての当り前が変わる苦しさ、変化を乗り越えさせられる苦しさ、苦痛」、二宮先生がおっしゃったこのことに焦点をあてることで“子どもの為の小中一貫”作りのポイントなんだと感じました。ただ、ゴールを意識しすぎるが故に、小学校1年、2年…でしか身につけられないものや幼児教育から連続している”育ち”に対する大切な視点がぼやけるようなことがあってはならないと感じました。それぞれの学年で「今、しなければいけないこと」を大切に、でも、15の春にうまくつなげる見通しをもった教育も大切にとバランス感覚をもっていく必要性を感じました。

小中一貫は施設の面より、教育内容が大事だということがわかった。小中一貫教育は、これからは全国に広がって、4・3・2区分がスタンダードになることがわかった。戦後から6・3区分が変わってなくて、4・3・2区分へというのは、世の中の変化や子どもの変化に合わせていることもわかった。小中一貫教育を、よりよいものにしていきたい。

9年間を通して、子どもの学びと育ちを見ていくという小中一貫教育の良さはある程度理解できました。特に自尊感情を育てていくことの有効性が理解できました。

多度地区の場合、小学校単位で学級によって差がある中で、今のままでは、そのまま中学校で一緒に勉強する事にすごい不安を感じていました。小中一貫教育によって、多度地区の子供達にとっては、とても良い事であるという事が、今日の講演会を聞かせてもらい、思いました。子供たちの為により良い学校をめざして、協力していきたいと思いました。

本日はありがとうございました。少しですが、考え方がかわりました。まだまだ心配な事はありますが、やってみるべき（時代に合わせ）だとは思いますが。

小中一貫教育について何も知らなかったのですが、少し理解することができました。

異学年交流により、子ども達の意欲向上など、よい点がわかりました。ただ、縦のつながりは強調されるが、先生方がこども1人ひとりを細やかに見ている点などで、もう少しお話をききたかった。（時間を気にして質問できず、すみません）。イメージしづらいので、先生方のうちあわせの内容など。

小→中への段差がなくなるのは良いと感じました。

「子どもたちのための～」の文言が「国民のために働く～」と重なってきこえた。小中一貫でより”規律ある”学校づくりが求められ子どもたちが窮屈になるように感じた。「小中一貫は止められない」ではなく、今の状況下で一度立止まり見直しも要るのではないか。小中一貫校施設一体型は究極の”教員リストラ”と言われているが、時代に逆行していないか。

小学校から中学校へあがる時の不要な段差を（成長のためにより段差は残しても）なくしていく。小中一貫教育になることでこどもたちの不安をとり除けるなら。「小中一貫教育は目に見えないが、子どもの姿に現れる」というのはなるほどと思いました。成果がみられるのには長い時間がかかることもあるようなので、保護者としてもゆったりかまえないといけないのかな、（先生たちのチャレンジに口をださないとか）と感じました。（何か特別な学習方法ではないのですね。）

6・3制の課題が4・3・2制（小中一貫）で解決できる面が大きいことは理解できました。小中一貫の4・3・2制が主流だと仰っていましたが、4・3・2制ならではの課題、移行にあたっての留意点等あれば教えていただき、市の教育委員会にも伝えていただきたいです。中学校で荒れることが減るとのことでしたが、小学校低学年時点で学級崩壊のような状態のクラスがある状態の場合、小中一貫によってメリットがあるのか…という疑問が残りました。

小中一貫校の中身のリアルが知れました。先生方の交流・子供達の情報共有して頂く事は子供の不安を取り除いてくれると感じました。職員室を同じにしてもらいたいと思います。異学年交流の活動により、小学生の中学校への不安を取り除ける、期待も生まれる、中学生の自尊心の向上、ぜひ取り入れてほしいと思います。100人の素敵な生き方に会える学校については、夢も見つけるチャンスが与えられる、頑張れるにつながると思います。4・3・2の区分で、3の部分は、特にメリットが大きかったです。中学校・人間関係、本当に不安は大きく感じると感じます。そこを取り除けるのは大きい！

今日はありがとうございました。子どもたちのためにどの段階で、どんな成長をさせていくかを考えてカリキュラムを組むというのはとても大切なことだと感じました。今の小学校でも大切に取組んでいきたいです。呉市で小中一貫教育がはじまったのは「自尊感情の育成」と「中一ギャップの解消」がきっかけで始まったのでしょうか？呉中央学園は「4・3・2」で校舎が分かっていたように思いますが、そうなった流れを教えてくださいたいです。

9年間のカリキュラムづくりが本質だと思いました。桑名市としての方針も必要で、その中で多度ではどの特色を生かしていくのか考える時間が重要。地域、保護者もこれからの教育について、もっと実感してもらい、どんな関わりができるのかイメージしてもらえようように進めてほしい。

中学生年齢の自尊感情向上に資するのは理解できましたが、小学生領域の児童にとってどのような教育効果をもたらされるのか…の疑問があまり解決しません。小4までの教育を大切に思うので、今回はそのあたりをききたい。

一体型のよさが実感できました。子どものために行う、子どもの発達に合わせた教師の意識改革こそ、小中一貫教育であることを改めて心新たにしました。小中にどんな段差があり、改善していくといいのかを小中教職員がしっかり把握することからだと思います。

改めて”子どもための”小中一貫であるということを確認することができました。バックトゥザフューチャーが座右の銘なのですが、子ども達にとっては小さなきっかけこそが人生をポジティブにしていくことにつながるので、そのためには自尊感情、ポジティブに評価していく場面が大事だと改めて思いました。授業改善について、9年を見越した統一したフォーマットを指導要領改訂をチャンスととらえトライしていけたらと思います。「教えて考えさせる授業」の中でも「考えさせる」へのチェンジは大いなるチャレンジだと思います。

小中一貫教育が、子どもたちにとって良いものとなる可能性を秘めていることはよくわかりました。ただ、実現させるために乗り越えなければならないこと（教職員の意識改革、地域・保護者とのつながり、働き方の問題など）は、やはり山積していると思います。丁寧かつ慎重に、それぞれの思いを受け止めながら、進めてほしいです。決してタイムスケジュール（期限）に縛られることのないように、お願いします。

具体的な取り組み、成果を聞くことができてよかった。ただ、多度の場合、最初が上からの提案であったこと。取り組みがはっきり見えないことで、理解が得られにくいというのが本音。4・3・2制なのかもはっきりせず。今まで単独で各校行っていた総合学習や地域学習が、ひとつの多人数の学校になったとき、どのように克服、工夫していったらいいのか聞きたい。できなくなることの多さが気になる。

小中一貫校の学年の区分けで「4・3・2」で分けられる時に、指導法や評価をどのようにしたら、子どもがとまどいなく学習できるのか教えてほしい。

自尊感情の育成に対し、思春期の子どもたちにとって素晴らしい体験が出来るんだと嬉しくなりました。多度はよりよく小中一貫教育が出来る一体型となるので、孫を通わせたいな～という妄想が広がります。（中一ギャップの解消に対しては、常にステップアップの時、不安はあるのでそれを乗り越えていってこそ力になると思っておりましたが、本日のお話を聞き自己肯定感をしっかり高める小中一貫教育により、大人になっていくさまざまな段階での不安も取り除けるんだなと、わかりよかったです）

以下、余白